

## 地域情報ゼミナール CI (その2)

2 units 4th-year(1st semester)

Tetsuya Toyoda · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

**Target)** この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的考察を深めることを目的とする。

**Outline)** 人文地理学ゼミナール

**Keyword)** *geography, spatial structure, regional problem, geographic information system*

**Fundamental Lecture)** “地域情報ゼミナール CI (その1)”(1.0), “地域情報ゼミナール CI (その2)”(1.0)

**Relational Lecture)** “地域構造論研究 I”(0.5), “Human Geography I”(0.5)

**Notice)** 本ゼミナールの受講にあたって地域情報ゼミナール CII と併せて通年で履修すること。3年次向けに開講される地域情報ゼミナール CI (その1) とは、単位の重ね読みができる。

**Goal)** 自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

**Schedule)**

1. 人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。4年次前期には、卒業研究のテーマを確定し、調査・分析を着実に進めていくことが求められる。第一に、これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし、その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である。第二に、独自の調査によって実証的なデータを収集し、研究目的にふさわしい分析を加えていかななくてはならない。授業では、それぞれの作業の進展に応じて3回程度の間隔発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。
2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。
3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール B、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

**Evaluation Criteria)** 授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度

をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

**Re-evaluation)** 行わない

**Textbook)** 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218807>

**Contact)**

⇒ Toyoda (+81-88-656-7154, [toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (Office Hour: 前期・後期 月曜日 16:30~ 17:30)